

令和2年度 学校評価書

四万十市立下田中学校

学校長 山崎 利彦 印

1. 学校教育目標

やさしく つよく かしこい生徒の育成

2. 本校の現状

本校は、これまで教科間連携の取組を進め、チーム会を中心とした公開授業・協議を組織的に展開してきた。その中で教科間連携に対する教員の有用感も内部評価で100%となり、教職員の授業改善に向けた課題意識が高まってきた。一方、主体的・対話的で深い学びの実現という授業の質的な向上の面が十分でなく、学力調査結果でも十分な成果が残せていない。新2年生の県版学力調査結果では、全国との差は国-2.4、社-5.5、理-0.2、英-19.8という状況にあり、また、新3年生の英語も-4.4という状況で課題が見られた。また、個々の生徒の学力格差が大きいことや全体的に表現力が弱いことも課題ととらえている。

生徒指導面では、全体的に落ち着きはあり、学校の教職員との良好な関係性も築けている。また、あいさつをきちんとしようという意識が生徒には高まっており、保護者・地域からの評価も高い(生徒96%、保護者82%、地域90%の肯定的評価)。課題は、自己肯定感の低い生徒や学校生活の満足度が低い生徒が一定数いることへの対応や、特別な支援が必要な生徒への個別対応である。また、昨年度途中から1名が不登校となっており、継続した支援と関わりが必要だととらえている。

部活運営面は、少人数ではあるが円滑な運営ができており、体力向上にもつながっている。また、地域・若草園・その他関係機関との連携についても生徒を中心とした取組で一致ができており、今後も関係性を強化していきたい。

3. 本年度の評価項目

- [1]学力向上**
- ①学力向上のための組織的な校内研修等の取組
 - ②子どもにわかる授業づくり
 - ③予習・復習の質と量を高める取組
- [2]生徒指導**
- ①いじめの防止等のための取組
 - ②不登校(傾向)の予防と支援
 - ③豊かな心の育成
- [3]学校・家庭・地域の連携・協働**
- ①小中の円滑な接続の推進
 - ②みんなであいさつ運動
 - ③地域との連携(※学校地域支援本部事業の推進)
- [4]働き方改革(業務改善)**
- ①定時退校日の設定と退校時刻の遵守
 - ②部活動ガイドラインに基づく部活動運営

4. 自己評価

評価項目		評価指標	取組状況・成果	評定	次年度の方策
大	中				
〔1〕学力向上	①学力向上のための組織的な研修等の取組	○教科間連携の取組を核とした授業改善に努め、次の項目で90%以上の肯定的評価を目標とする。 ①発表や意見が言えると評価できる生徒 ②振り返りの充実 ③校内研修・チーム会への有用感 ○県版学力調査結果 ①全国平均以上、県平均+3P以上。 ②正答率50%以下の生徒をゼロにする。			
	②子どもにわかる授業づくり	○アンケートにおいて、授業内容が理解できると肯定的に評価する生徒を80%以上。 ○学力向上の取組に対する保護者の肯定的評価を90%以上。 ○授業力チェックシートの総合評価で3.5P以上。 ○ユニバーサルデザインの視点で、環境・情報伝達・活動内容の工夫ができていと評価する生徒80%以上			
	③予習・復習の質と量を高める取組	○宿題提出率100%を目指す。(保護者へ提出状況を知らせる取組) ○家庭学習1時間半以上の定着率80%を目指す。 ○各教科のノートの内容・質を高める。			

〔2〕 生徒指導	①いじめの防止等のための取組	<p>○家庭・地域に「下田中学校いじめ防止基本方針」を周知する。</p> <p>○生徒に対する学校評価で、「いじめに対する教員の態度」に対して肯定的評価を100%とする。</p> <p>○学期毎に生活アンケートを実施し、結果を公表するとともに、必要に応じた面談や家庭訪問を実施する。</p> <p>○自分には良いところがあると評価する生徒を70%以上とする。</p> <p>○学校評価で「学校が楽しい」と肯定的に回答する生徒を100%とする。</p>			
	②不登校(傾向)対応の予防と支援	<p>○生徒の情報共有を全教職員で図り、必要な手立てを講じる。</p> <p>①毎月1回以上の共有の場の設定</p> <p>②個別の生徒対応や保護者対応の継続</p> <p>○校内支援委員会の定期的な実施(月1回以上)</p> <p>○Q-Uの学級生活満足群75%以上を目指す。</p> <p>○SC、SSW、若草園等との連携を推進する。</p>			
	③豊かな心の育成	<p>○道徳の授業アンケートで、道徳の授業に対する肯定的評価を80%以上とする。</p> <p>○朝読書・読み聞かせの継続実施。</p> <p>○総合中心としてキャリア教育を推進し、将来の夢や希望を持つことができる生徒を70%以上とする。</p> <p>○学校評価の「あなたは学校の生活規律を守り生活しているか」で肯定的評価100%を目指す。</p>			
〔3〕 学校・家庭・地域の連携・協働	①小中の円滑な接続の推進	<p>○学校地域支援本部会を小中合同で年2回開催。</p> <p>○地域のことを学ぶ小中合同研修を実施する。</p> <p>○小中で総合の系統性を協議する場を設け、計画の見直しにつなげる。</p>			
	②みんなであいさつ運動	<p>○生徒会を中心とした朝の挨拶運動の実施。(年5回以上)</p> <p>○校区の児童会と連携した挨拶運動の実施。(年3回)</p> <p>○学校評価の「気持ちの良い挨拶の実施」に関して、生徒は肯定的評価90%以上、保護者・地域は肯定的評価80%以上を目指す。</p>			
	③地域との連携(※学校地域支援本部事業の推進)	<p>○学校地域支援本部会を年間2回開催し、地域との交流・連携等を積極的に推進する。特に取組の情報発信に努める。</p> <p>○地域の方と合同学校環境整備の実施(年3回)</p> <p>○学校と民生委員さんとの情報交換ができる場を学期に1回は設ける。</p> <p>○職場体験学習や防災教育に関して、地域を学びの場とする取組を推進する。</p>			

〔4〕 働き方改革	①定時退校日の設定と退校時刻の遵守	○毎週、月曜日をPM7時までの定時退校、通常はPM8時までの退校とし、その達成率を100%に近づける。			
	②部活動ガイドラインに基づく部活動運営	○学校便りでの再度の周知 ○学校評価で、部活動運営に対する保護者からの肯定的評価90%以上			

4段階評価（4 目標を十分に達成、 3 ほぼ目標を達成、 2 やや不十分、 1 改善を要する）

5. 学校関係者評価